# 市民と市長との対話集会（テーマ：棚田を未来につなぐために）
# 主な意見交換の内容

開催日：令和5年11月12日（日）
会　場：ゑしんの里記念館　1階　多目的ホール
参加者：15人

（参加者）
・里山や棚田に興味があり、趣味以上、本業以下ぐらいで園芸をやっている。成果としては、唐辛子の販売ルートを立ち上げたことと、カボチャを1個1,200円で売ることができたこと。
・カボチャを売ってみて実感したが、食の価値を決めるのは買う側であり、新しい価値を棚田でどう作っていくかというところはこれからだと思う。
・これからの棚田をつなぐということを考えたときに、今の棚田の維持は大変だと思うが、そこに必要な景観やいろいろな価値を残しつつ、維持もしやすく仕事を楽しくできるような、新しい棚田のモデルみたいなものを作っても良いと思う。

（市長）
・昔は自給自足していたが、その原点が中山間地域には残っていると思う。新しいというよりも、今まで不変的に続いてきた生きるための価値がこの地域に残っていると。そういう意味で非常に価値があると思う。
・農作物の生産過程に関わっていれば、食について語れることが10倍・100倍になってくると思うので、子どもたちをはじめ、皆さんから体験をしていただきたい。

（参加者）
・先日、市の紹介で企業の社員の農業体験の手伝いを行い、楽しい体験をさせてもらった。
・企業版の農業体験を推進していくことが、棚田振興の一つの手ではないかと感じたが、受入れには大変な苦労がかかることが課題。
・ニーズを探り、手配して、実現するまでを専門に行うところが必要ではないか。
・例えば、企業をターゲットとする旅行会社もたくさんあるので、そうしたところを活用して、農業体験を受け入れていけると良い。
・旅行会社は、企業側の福利厚生をターゲットとして、参加された方からお金を頂戴する、それを地元に還元するようなことをやっていければ、両者が上手くウィンウィンになるのではないかと感じた。

（参加者）
・IT 会社を経営しており、社員はほとんど関東圏に居住している。
・今年から社員の福利厚生の一環として、市内の棚田での耕作を取り入れている。中でも、先ほど米の価値という話も出たが、社員からは「実際に体験して作った米を食べることで、その価値を見出すことができた」といった意見が上がっている。
・来年は、耕作範囲を広げて興味を持つ顧客等にも体験してもらいたいと考えており、受入れの際は地域の皆さんの協力が必要であるため、行政と一緒に進められたらと感じている。

（市長）
・農業体験を一つのきっかけとして企業とつながりを作り、おいしいお米を安定的に買っていただきたい。この土地で生産されているものを適正な価値で買っていただくことが大切だと思っている。
・生きるために地域の皆さんが協力しながら田んぼを開発してきて、今の棚田がある。生命の原点がそこにあるのだという棚田の背景にある物語や、日ごろの棚田での作業の大変さや住む人の暮らしぶり、文化などバックにあるものをしっかりと見せていくことで、そこにある米の価値を高めることになるのではないか。

（参加者）
・新潟県の ECHIGO 棚田サポーターの活動に毎年参加している。
・中山間地域のお米はおいしい。特に冷めたときにそのおいしさがわかる。
・中山間地域は、毎年若者が流出し高齢化が進んでいる。活動の受入れをどうするかが問題だと思っている。

（参加者）
・測量設計をしている技術者側から見た棚田の大切さは、その貯水能力によって市街地を洪水から守っているところである。
・こうした水源涵養や国土の保全という観点での棚田の PR を、国・県だけではなく市からもお願いしたい。
・ECHIGO 棚田サポーターに企業会員として参加しているほか、新潟県の棚田みらい応援団（サポートのマッチング）にも加盟しているが、市も県とともに会員のサポートをしていただけると、より手厚くサポーター活動ができるのではないか。

（市長）
・サポーター活動は本当にありがたい。これからもお願いしたい。行政としても最大限支援をさせていただきたい。

・棚田を守らなければいけないということをみんなで確認しながら、これからも永続的に取組を続けていかなければいけない。
・中山間地域のみんなで団結して、一緒に生きていくという姿を大切にしていかなければいけない。行政としても取り組みを進めていきたいと思う。

（参加者）
・平均的なお米よりも圧倒的に高い値段で棚田米を販売しているが、一緒に棚田米を頑張って売っていこうとしている同世代の仲間と出品をしていくときに、そのおいしさをどう知ってもらうかが一つ大きなハードルとしてある。
・例えば市で、棚田でお米を作っている人が誰でも使えるようなパンフレットを作るなど、なぜ棚田米がおいしいのかを一般市民の方にわかりやすく伝えるものがあると助かる。
・企業の受入れの話もあったが、棚田の米を高く売る以外に、そこでお金を落としてもらうことにもつながると思う。市でも企業誘致に力を入れていると思うが、それに加えて、棚田に来てもらって体験をしてもらって、そしてお米を届けるというような、企業と地域の関係づくりに本腰を入れていただきたい。
・最近の国の農業政策は、どうしても大規模化・機械化ということで、人がいなくても田んぼがつくれるようにどうしたらいいかに重きが置かれているように思う。国としては食料自給率の関係でそのような考えも必要だと思うが、中山間地域を多く抱える上越市としては、人々が繋いできた文化や風景・暮らしがあってこその棚田地域の魅力で、農業後継者が小規模でもやってみようと思えるような政策的な後押しをこれからもお願いしたい。

（市長）
・これだけ多くの棚田がある中で、各土地の魅力を市でPRすることはなかなか難しい。
・チラシの作り方やウェブサイトの活用など、PRテクニックの習得を支援しながら、農家の皆さんの個性をいかしていくような仕組みでやっていかなければいけないと思う。

（参加者）
・自分たちの旅行会社では、東京の本社に専門の課があり、この美しい棚田にインバウンドも含めて都会の方を送っているが、送り手側として、情報・ＰＲ不足という部分があり、多くの方になかなか届いていないというのが現状と聞いている。
・ふるさと納税の返礼品として、実際に棚田に来て耕作体験をしてもらい、そしてお米を買っていただくことで、より棚田への理解を深めていただけると思う。
・今日実際に棚田を巡ってみて、初めて棚田を訪れた人は本当に感動するのではないかと感じた。受け宿の育成などをしながら、それをつなぐところが一つできれば、受入れ態勢が上手く回っていくのではないかと感じた。

（参加者）
・高田の桜や蓮に勝るとも劣らないのが卯の花だと思う。
・現在かなり数は減っているが、今後、中山間地域全体に卯の花を広げていけば、撮影に来ていただいたり、絵を描きに来ていただいたり、交流人口が必ず増えていくと思う。

（参加者）
・普段はＩＴ系企業で会社員で、休日を利用してボランティアで棚田の草刈、用水の掃除をさせていただいている。棚田はすごく効率が悪いと感じるが、それでもやっぱり棚田を残したいというのは、それなりに棚田の良いところがたくさんあるからだと思う。
・景色の良さ、生態系の維持、災害対策など、棚田の良いところをもっと対外的にアピールをしていったほうが良いと思う。
・特に、棚田が災害防止の重要な役割を担っていることを知らない人が多いと思うので、そういった人たちを呼び込んで、少しお手伝いもしてもらいながら、苦労してこれだけおいしいお米を作っているということを PR できればすごく良いと思う。

（市長）
・コロナが明け、新幹線も関西の方に通じれば、たくさんの人が訪れると思う。
・棚田の機能や綺麗な花々、棚田米のおいしさを知ってもらうプログラムなどを準備しながら、1 年間受入れが可能な形をとっていければと考えている。

（参加者）
・3 年前に上越に移住し、個人経営の農場に勤めながら、田んぼの勉強をしている。
・棚田では、草刈り作業が一番大変に感じる。また、イノシシの被害も年々大きくなっており、なかなか管理する人手が足りないのが現状。
・対話集会に参加してみて、企業でも個人でも棚田に興味を持って支えてくれる方がいること、市も窓口となって受付をしていることを知れたので良かった。
・市でやっている「おためし農業体験」の受入れ側になれるよう、来年から準備を始めたいと思う。市と協力・連携していきたい。

（参加者）
・各中山間地域どんな形が成り立っているかを考えると、農業イコール集落みたいなところがあるので、その辺も考え合わせたサポートをしてほしい。
・中山間地域だと、機械が壊れたら、もうそれで農業をやめてしまうのが現状だと思う。そういったところを行政にも把握していただきながら、市独自のもっと色の強い、棚田米なり中山間地域のサポートをしていただければと思う。

（参加者）

・結婚して子どもができると、食育という観点から無農薬の米を食べさせてあげたいという思いになるので、県外を含めて、もう少し若い世代のお米に対する興味関心を引けるような発信をしていければ良いと思う。

・「棚田米」という言葉自体を市で掲げてブランディングをし、もう少し希少価値をつけて県外に発信していく取組ができれば良いと感じた。

（参加者）

・若い方々が農業に関心を持ち、実際に携わってくれていることを、すごくうれしく感じた。

（参加者）

・過疎化や高齢化による人口減少で、極めて急速に担い手が減っている中、棚田をどうやって持続していくかは難しい問題だが、時折訪れる人をあてにするだけでなく、中山間地域の暮らしやすさのようなものを高めていくことが重要ではないかと思った。

・上越市は非常に広大な中山間地域を抱えているが、そこを全体的に満遍なく維持していくのか、あるいはどこかでメリハリをつけて機能を分担させていくのかというようなことも考えていく必要があるのではないかと感じた。

（市長）

・棚田で昔から営まれてきた生活、棚田の価値を皆さんにPRしていかなければいけないと思っている。

・いろいろなお知恵をいただきながら、棚田で作った農産物の価値を認めていただいて適正な価格で販売をしていく、そして棚田がこれからも持続的に維持されていく姿を目指しながら、皆さんと頑張っていきたい。